

せ かい で ん せ つ
世界の伝説

1年生

浜田廣介・大藤時彦 共編

NDC 380

学年別シリーズ

世界の伝説 1年生

編者 浜田廣介・大藤時彦

1971年〈昭和46年〉

実業之日本社

180p. 21.5cm

本文3号活字使用

小学校1年生向き

〔内容〕 昔から世界の各地に伝わるお話〈伝説〉を、このシリーズのために新たに収集し、やさしい文に書き直した異色の伝説集。

検印省略

学年別シリーズ

世界の伝説 1年生

1959年6月15日 第1版第1刷発行

1971年8月15日 第2版第1刷発行

1975年12月1日 第6刷発行

編者 浜田廣介・大藤時彦

発行者 増田義彦

発行所 実業之日本社

〒104 東京都中央区銀座1-3-9

電話(大代表) 03-562-4311 振替 東京1-326

印刷所 株式会社 佐藤印刷所

© Jitsugyo no Nihonsha, 1971. Printed in Japan

8339-807451-3214

世界の伝説

2年生

浜田廣介・大藤時彦 共編



実業之日本社



はんを
かかえて
森^{もり}まで
くると、
おおかみが
できました。（『おひやくしようと
おおかみ』
129ページより）



●この本を編集した人

浜田廣介（はまだ ひろすけ）

大藤時彦（おおとう ときひこ）

●この本のお話を書いた人 〈50音順〉

石原綏代（いしはら やすよ）

大藤ゆき（おおとう ゆき）

丹野節子（たんの せつこ）

平塚武二（ひらつか たけじ）

福井研介（ふくい けんすけ）

堀尾青史（ほりお せいし）

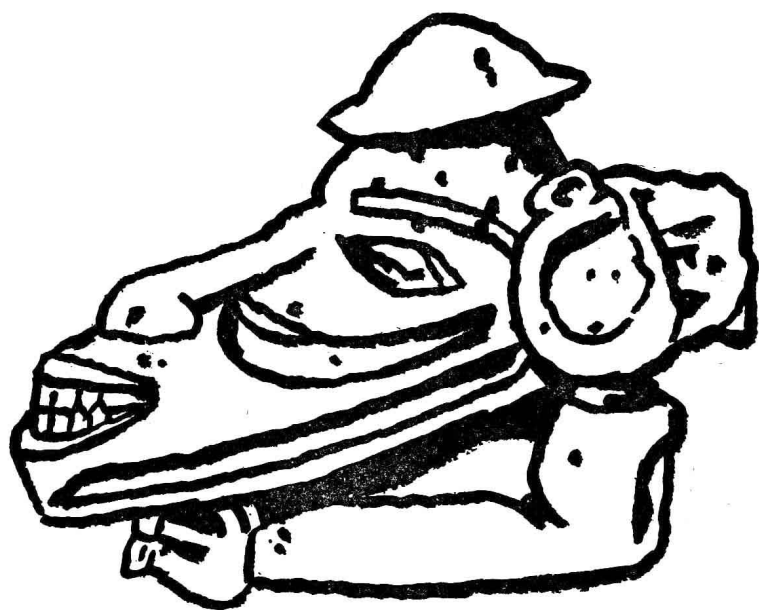
山主敏子（やまぬし としこ）

与田準一（よだ じゅんいち）

まえがき

この本は ^{ほん} せかいの でんせつ
を あつめたものです。でんせつ
とは なんでしょう。みなさん
は、きつと、はじめて きく こ
とばでしょう。

ぼく『ももたろう』の おはな
しなら しっている。わたし『し



たきりすずめ』の どうわなら
きいたことが あると おつしや
るでしょう。

でんせつにも、どうわと おな
じように、おもしろい はなしが
たくさん あります。

でんせつは、おとなの きく
はなしです。むかしの人^{ひと}が、ほん
とくに あったと おもっていた
はなしです。

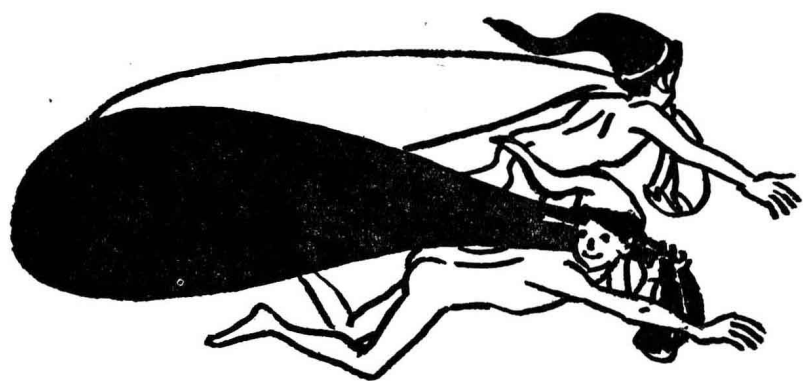
でんせつには、むずかしい は



なしが、たくさん あります。こ
の本^{ほん}には、その中^{なか}から、みなさん
にも よく わかって、おもしろ
いものだけを あつめました。
みなさんが おとなに なった
ら、もっと たくさん の でんせ
つを、きいたり よんだり する
ようになりますよ。

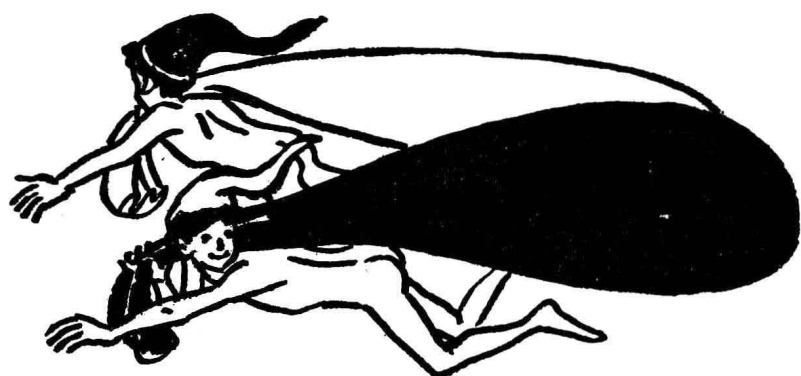
大^お 浜^{はま}
藤^{とう} 田^だ
時^{とき} 廣^{ひろ}
彦^{ひこ} 介^{すけ}





もくじ

しらさぎの おんがえしへちようせん	12
しょうじきものの りーさんへちようせん	20
十の たいようへちゆうごく	30
そらが たかくなつた はなしへたいわん	37
あんなんの げんちゅあんへいんどしな	44
そこーると	
がつつらみきこいの ぼうけんへばらお	54
ふしぎな 水へばらお	67
月に つかまつた 女へぼりねしあ	76



大^{おお}おとこと くじらへぼりねしあ……………80

よるの はじめへめらねしあ……………90

ひると よるの はじまりへあめりか……………96

四つの かぜの おこりへべる……………102

ふしぎな 子^こうまへおーすとりあ……………106

くりーむおばあさんへすいす……………117

おひやくしようとおおかみへふらんす……………129

みずうみの できた わけへすこつとらんど……………145

ひげもじやの うすちやんのはなしへそびえと……………152

かんなくずの ほうびへきたよろっば……………162

かいせつ……………172

【この本の絵をかけた人】

表紙・見返し・とびら
口絵・さし絵
／輪島清隆

【この本をつくるのに協力した人】

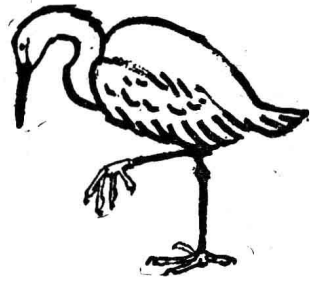
構成／村上美術

編集／編集者集団 “あーる”

世^せ界^{かい}の^い伝^{でん}説^{せつ}

一^い年^{ねん}生^{せい}





しらさぎの おんがえし

ちようせんの でんせつ

むかし、ちようせんに、りーぎすという おじいさんが いました。

あるときのこと、おいけの やなぎの 木きに、しらさぎが すを かけて、ひなを そだてていました。かわいい ひなが ぴい ぴい いって、ひよろひよろした くびを ふりたてています



と、どこからか、大きな^{おお}へびが、のろのろ やってきました。
りーじいさんは、かたなをぬいて、ぴゅっと なげつけまし
た。かたなは、みごとへびに あたりました。あたった ひよ
うしに、かたなのはさきが おれて、へびは おいけの中^{なか}に
おちて、しにしました。

あくるとし、青^{あお}ばの しげる ころ、りーじいさんは、にわさ
きの すずしい やなぎの かぶに こしを おろして、つりを





していました。そのうちに、大きな うなぎが かかりました。
りーじいさんは、たいそう よろこんで、ばんごはんの おかず
に しようと、さつそく りょうりに かかりました。すると
どうでしょう。きよねんの なつ、あのへびの からだに うち
こんだ かたなの はさきが、うなぎの からだから でてきま